



『ツクールに
コメール思い』

立花智亜喜 (網走支部)

7月7日道東Bブロックの活動として津別町活汲にある「TSKOOL (ツクール)」の見学会を行いました。ツクールは廃校となった旧活汲小学校の校舎を活用して6月上旬にオープンしたショールームで、木材加工を行う榊山上木工にて製作された家具や雑貨等が展示、販売されています。ツクールという名前は、「スクール」「オホーツク」「津別」「ものづくり」等を連想させることをイメージして付けられたことや、津別町「開基の場所」である活汲の地から、美しい暮らしのスタイルを「発信していく」というポリシー等について、同社山上専務からご説明いただきました。

現地に到着するなり、想像以上の迫力かつ着着きのある外観に思わず感嘆してしまった私たちですが、中に入ってさらに感嘆。道東の田舎の片隅に、こんなハイセンスな展示施設があったなんて。そこにある家具や雑貨等は、自分が都会にいるのではないかと錯覚するような空間を作り出していました。

私は某高級家具店を思い出しながら展示品を見ていたのですが、その某店と決定的に違って感じたのは、「気軽に来られる雰囲気」「製品のあたたかみ」でした。また、家具は人の住まい方を研究し尽くしたディテールとなっているので、特に椅子は腰掛けたとたんに

気持ち良すぎて立ち上がれなくなるメンバーが続出していました。

色とりどりのファブリックを用いた椅子、大きな一枚板を用いたテーブル(70万円のテーブル(非売品)なんてものも!)、レトロ&モダンなイメージの照明器具、どれをとってもため息がでる逸品で、「これを我が家のリビングに、あれをダイニングに・・・」などと想像をかきたてられている内に、あっという間に1時間が経っていました。

品質なみの価格でありながら、決して手の届かない価格でもない、絶妙な価格設定でしたので、いつか自分のご褒美に、ロッキングチェアを買いたいなあ(でも絶対に子供と猫に取られるなあ)と思いながら、いつ以来かわからないオシャレな時間を過ごすことができました。



TSKOOLの外観



家具展示コーナー

平成30年度第28回全国女性建築士会連絡協議会(高知)
「未来へつなぐ居住環境づくり」
～一周おくれで先頭に伝統こそ
最先端～に参加して
岩崎 美乃 (函館支部)

7月28・29日の参加報告です。

■初日の講演会は、講師に山本長水氏を迎え、高知県の森林は全体の84%あり、木材の理想的な使い方ということで、まず「地元の丸太を使った家づくり」で、丸太ばかりで家を建てた事例紹介がありました。*間引いた丸太を短ルートで使う。木を丸太のまま使うと構造的にも安定し、丸太のカーブが持っている自然の良さが有る。*屋根材：耳突き板、めん皮板本実の野地板を厚めに引いて耳のカーブを美しく出す。*外壁：土佐漆喰、高知ヒノキ ヒラ角木目二段重ね。ヒノキの柱角四寸二重 *土佐漆喰：スサに藁を発酵させてグリーン調にし、天日さらしの紙を使用し小屋裏を設けて木材を隠さず、節も楽しむ。

もう1つ「県立競技場の屋根」の大スパン梁構造の紹介では、近年木造建築が忘れられつつあり、危機感を覚える。地域の皆様が木造建築の伝統を工夫して使うこと。職人の技術も使う事。使わないと、優れた技術が後世に残っていかないと話されていました。

■二日目はE分科会「自治体連携とまちづくり」に参加し、徳山支部 村越千幸子さんの『まち塾の活動』の内容を伺いました。



講演会(全建女)